

2014年度 全国英語教育学会  
高校生の英語学習実態から考える指導と学び  
ーインタビューを手がかりにしてー

---

高木亜希子(青山学院大学)

加藤由美子(ベネッセ教育総合研究所)

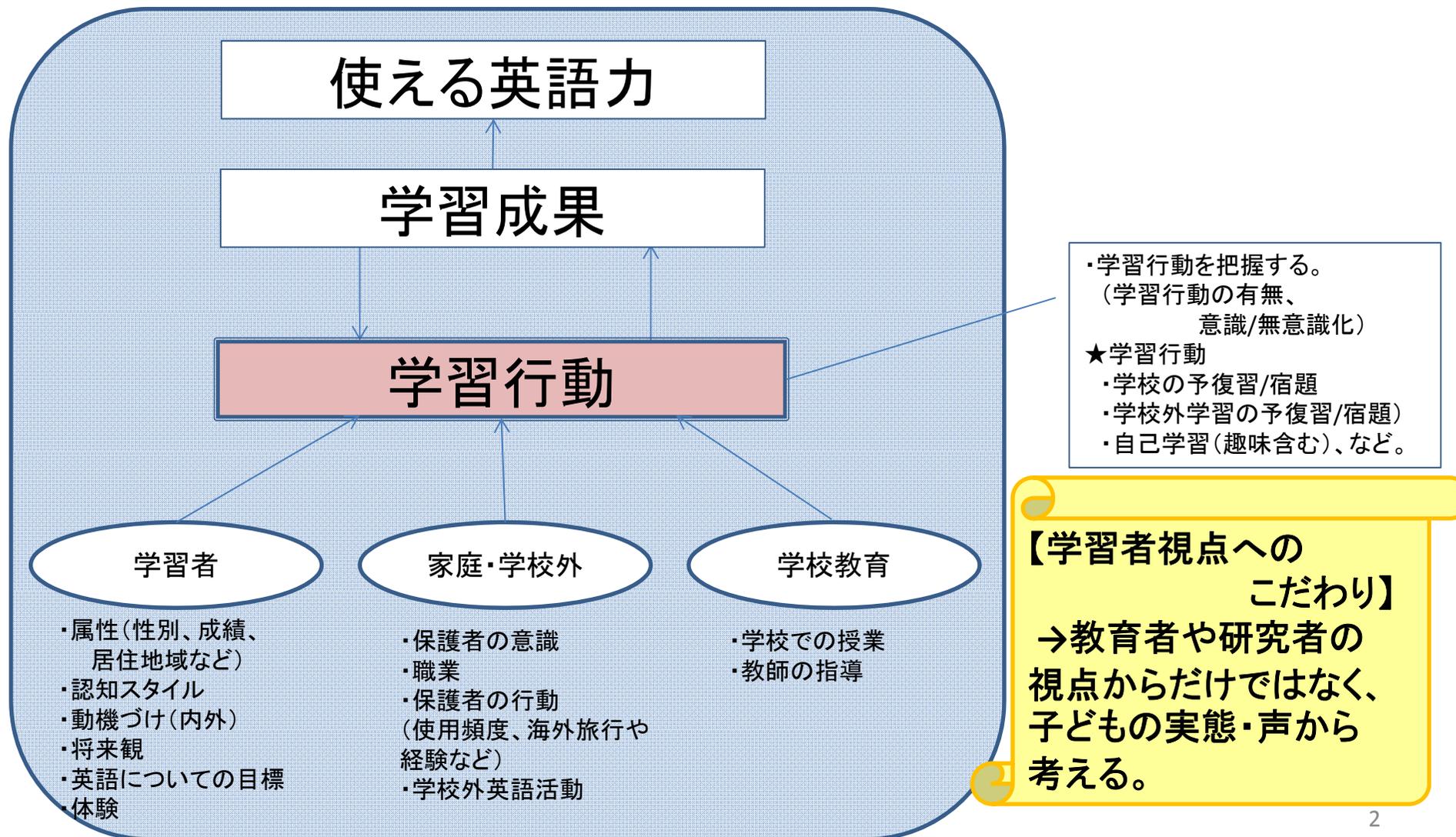
福本優美子(ベネッセ教育総合研究所)

工藤洋路(駒沢女子大学)

酒井英樹(信州大学)

## ●研究観点

中高生の学習実態を把握することにより、学習者や英語教育の課題を明らかにし、使える英語を身につけるための学習体系を提案する。



# 課題認識

【第1回中学校英語に関する基本調査】 調査時期2009年1～2月、調査対象中2生2,967名

## 英語学習でつまずきやすいポイント

(%)

### 英語に対する認識別

得意	得意	苦手	苦手
好き	嫌い	好き	嫌い
(n=630)	(n=484)	(n=122)	(n=1,711)

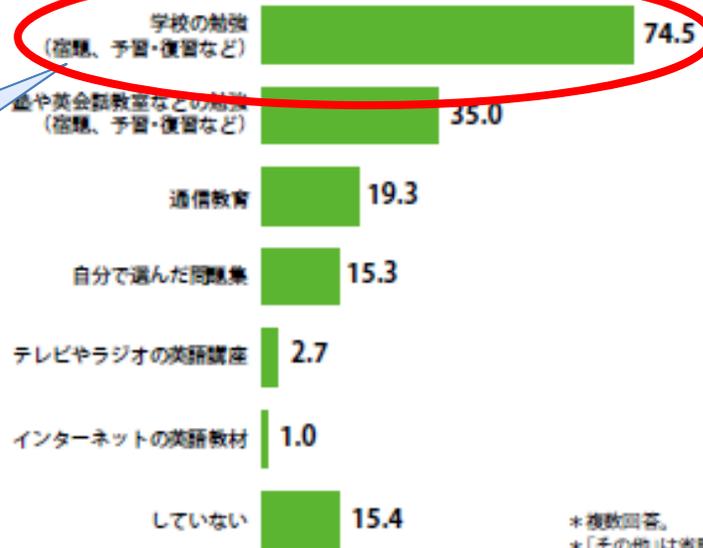


子どもたちにとってなぜそんなに文法の比重が大きいのか。

「文法が難しい」の「文法」とは何のことを指しているのか？子どもによっても違うのでは？

「学校外での英語学習」で7割以上を占める「学校の勉強」とは、具体的に何をどんな風にやっているのか。

図3-3 学校外での英語学習の種類(家庭学習) (%)



\*複数回答。  
\*「その他」は省略。

量的調査では捉えきれなかった詳細な部分をより具体的に、深く明らかにしたい。  
量的データをより立体的に捉えたい。

## ヒアリングの目的

→英語学習の実態把握(学校の授業、予習、復習、学校外学習、自己学習など)

→課題把握

## 中高生ヒアリング概要

対象	●学年・人数：中学2年生8名、高校2年生8名、合計16名
時期	●7、8月
方法	●時間：1人30～40分 ●実施方法：インタビュアー1名＋サブ1名 インタビュアー：酒井、工藤、加藤、福本 ●半構造化ヒアリング （事前に大まかな質問事項は決めておき、回答によってさらに詳細に聞く。） ●事前アンケートも実施
その他	●プレヒアリング実施（ヒアリング内容・方法検討のため） 中2生1名＋高3生1名

### ●伝統的な予習や宿題

- ・「左に本文、右に和訳」のノートやワークシートをほとんどの生徒が使っている。
- ・授業中の言語活動と関連していると思われるような学習はほとんど述べられない。
- ・大学の「英語科教育法」の授業では紹介されないような方法で指導を受けている。

### ●子どもの意識 「英語ができる」とは→「長文読解力が高い、文法がわかる」こと

- ・「話す」「聞く」などは、大学に行ってからやればいい、と考えている。
- ・英語を実際に使うということを前提とした英語学習観が欠如している。
- ・話すためには、まずは文法や単語が大切だと強く思っている。

### ●学校での勉強が、学校外での学習を規定する割合が大きい。

- ・日々の学習は、学校の予習・宿題、テスト対策がほとんどである。
- ・中学生だけでなく高校生も、家庭での学習は授業の予習(本文写し、単語の意味調べ、本文和訳など)や小テスト対策の勉強が大部分を占めていると思われる。

### ●英語の授業に対する意識

- ・中学生は授業をおおむね受け入れている。
- ・授業の中で行うことに、自分なりにその意義を見出そうとして、納得しながら勉強している生徒もいる。
- ・高校生の中には、今受けている授業を批判的に捉えている生徒もいる。

### ●将来観と学習行動・・・「将来英語を使うこと」と「今やっていること」の乖離

- ー将来、英語を使って仕事をしたいと考えている一人の生徒が、それに向けて今やるべきことは、「スペリングミス無くすこと」と答えた。
- ー英語を使って仕事をしてみたいと思っても、英単語の練習の際に日本語訳も一緒に書いて覚えていたり、本文を書き写すのに2時間かけていたりする生徒もいる。

### ●学校外での英語学習を始めたきっかけにはそれぞれのストーリーが見られる。

- ・そのエピソードは、必ずしも劇的なものではない。
- 例) 修学旅行で外国人に道を聞かれた、小さいころ祖母にABCの歌を歌ってもらって興味をもった、など。

### ●学校の学びに終始している生徒が多そうだが、それでも、小さな自律の芽もある。

- ・同じ予習でも、やり方を自分で考え、選択して行っている生徒もいる。
- ・自らで英語のプレゼンテーションの番組を見たり、洋楽を聴いたり(歌詞の聞き取りを意識したり、歌詞カードを見たり)という学びもある。

### ●先生の影響が大きい。先生との関係性が影響している。

- ・先生の指導通りに学習を行っている生徒が大部分である。
- ・先生との良好な関係により、英語に対して積極的に取り組んでいる生徒も多い。

### ●保護者の影響も大きい

- ・家庭での学びには、保護者の影響が大きい。

## ヒアリングの第2次分析

対象：中学生2名、**高校生2名（本研究の分析対象）**

目的：英語学習行動の背景にある意識は何かを探る。

分析方法：**Thinking at the Edge (TAE)**

分析者：面接者（インタビューをしながら、生徒の表情や声の抑揚など、非言語から感じられた要素も分析に取りこむ）

※生徒と面接者（分析者）の相互関係で意味を構築していく。

「うまく言葉にできてないけれどもも重要だと感じられる身体感覚を、言語シンボルと相互作用させながら精緻化し、新しい意味と言語表現を生み出していく系統だった方法（得丸、2010、p.5）

⇒得丸(2010)が質的研究に応用

⇒14ステップで、次第にシンボル化（言語化、図式化）し、最終的に「漠然とした理解」から「新概念」を生成する。

⇒生徒の英語学習の課題、意識、およびインタビュアーの感じたことなどを個々の学習者の文脈で捉える事ができる。

## 分析過程

### Part1 (ステップ1～5) 「フェルトセンスから語る」

---

明確に言語化できないが漠然と身体的に感じられる感覚を言語化する。

### Part2 (ステップ6～9) 「実例からパターンを引き出す」

---

データから多様な側面を選び出し、パターンとして言い表すとともに、各パターンを相互に交差させ、  
データから新たに浮かび上がってくる知見を書き留める。

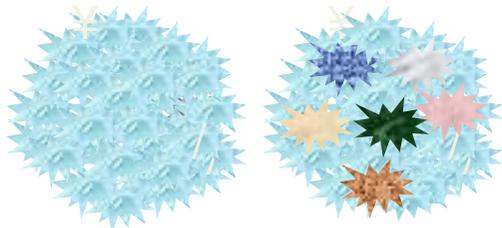
### Part3 (ステップ10～14) 「理論を構築する」

---

これまでのステップを経て、分析者が保持しているフェルトセンスで用語を選出し、概念としていく。

# 各ステップのイメージ

(本スライドは得丸先生の講義pptより)



(作業) パートⅠ

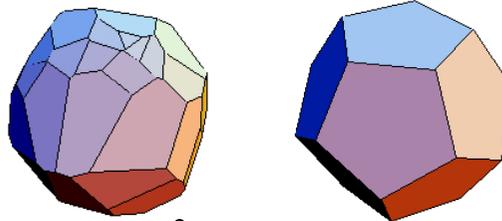
全体をつかむ 1  
 重要な切片を拾いあげる 3,4  
 中核をつかむ 5

(結果)

語句の並列と、  
 一文で表す

(使用するシート)

マイセンテンスシート



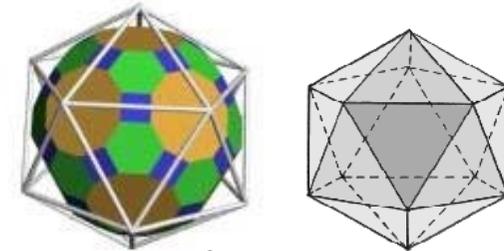
パートⅡ

部分内の細部を検討する 6,7  
 部分間の関係を見出す 8

複数の文の連立  
 (箇条書)で表す

パターンシート

交差シート



パートⅢ

諸関係の結節点を見出す 10,11  
 結節点をつなぎ構造を作る 12  
 (構造を動かす 13,14)

概念構造(理論)  
 で表す

用語関連シート  
 (1)(2)(3)

## フェルトセンス

（うまく言葉にできないけれど重要だと感じられる身体感覚\*）

好き嫌いがはっきりしている。  
かっこよさを意識している。  
心動かされるものが好き。  
先生エピソードが多い。  
苦しんでいる。  
批判的な部分がある。

## パターン

（インタビューから読み取れる、行動や意識、志向などのパターン）

- ①学習以外のものの誘惑に負けてしまう。
- ②感受性が豊かである。
- ③先生の影響が大きい。
- ④中学の英語学習では自信があった。
- ⑤高校の英語学習の細かさや量に負担を感じている。
- ⑥高校に入って自信を失いつつある。
- ⑦高校の英語学習に納得していない。

### 【パターン2】

●はい。いやあの中三のときに、塾行ってたんですけど、すごくなにかいい先生がいて、その先生がこういう本貸してくれたんですけど、でそれが、その本はアラジンとか、なんかトムソーヤの冒険とかけっこう一般的に知られてるやつ、であって、でそれ初めて読んだときに、こうなんか**英語で本読めることにすごいなんか感動して、**でそれからずっとなんか**英語読むの楽しいなって思ってたし、**ああ多分家に**こういうのめっちゃがーってあったら、なんかかけえなっていうのがちょっとあって、**で集めようかなっていうのが、思ってたっていうのがあります。

### 【パターン6】

●ああ中学校のときに、ああもうなんか基本的に**高校入って文法全然わかんなくなっ**たなっていうのがあって、でそれがなんか、高校じゃなくて中学までの文法は、すごい、あの基本中の基本だったんですよ、でそれが高校になって、高校になっての**一番初めの文法の授業で、現在動詞、動詞の基本形の話になって、その基本形がどこを表してるのかみたいなの話になったときに、すごい難しいな**って、ちょっと思いました。

## 高校生A：英語学習研究 ヒアリング二次分析（TAE）

幼少

中学校

英語学習の楽しさと  
自信を感じる。

高校

英語学習の  
楽しさも自信も  
感じられなくなっている。

将来

●好きな先生からの良い影響で英語学習に積極的に取り組む。

－英文の大意を把握する方法を塾の先生に教えてもらった。

－手作りの単語リストを作ってくれた感動した。

●英語を読める感動を味わう。

－アラジンやトムソーヤの冒険など一般的に知られている物語を英語で初めて読んでも読めたことに感動した。

●高校の英語学習の大変さにぶつかり自信を失っている。

－文法の抽象概念や細かなニュアンスの違いへの理解を難しく感じる。

－大量の問題集に取り組みを求めるやり方に納得できない。

●英語を読む感動を味わえなくなっている。

－サイドリーダーが定期テストの題材として使われ、詳細理解のみを求められている。

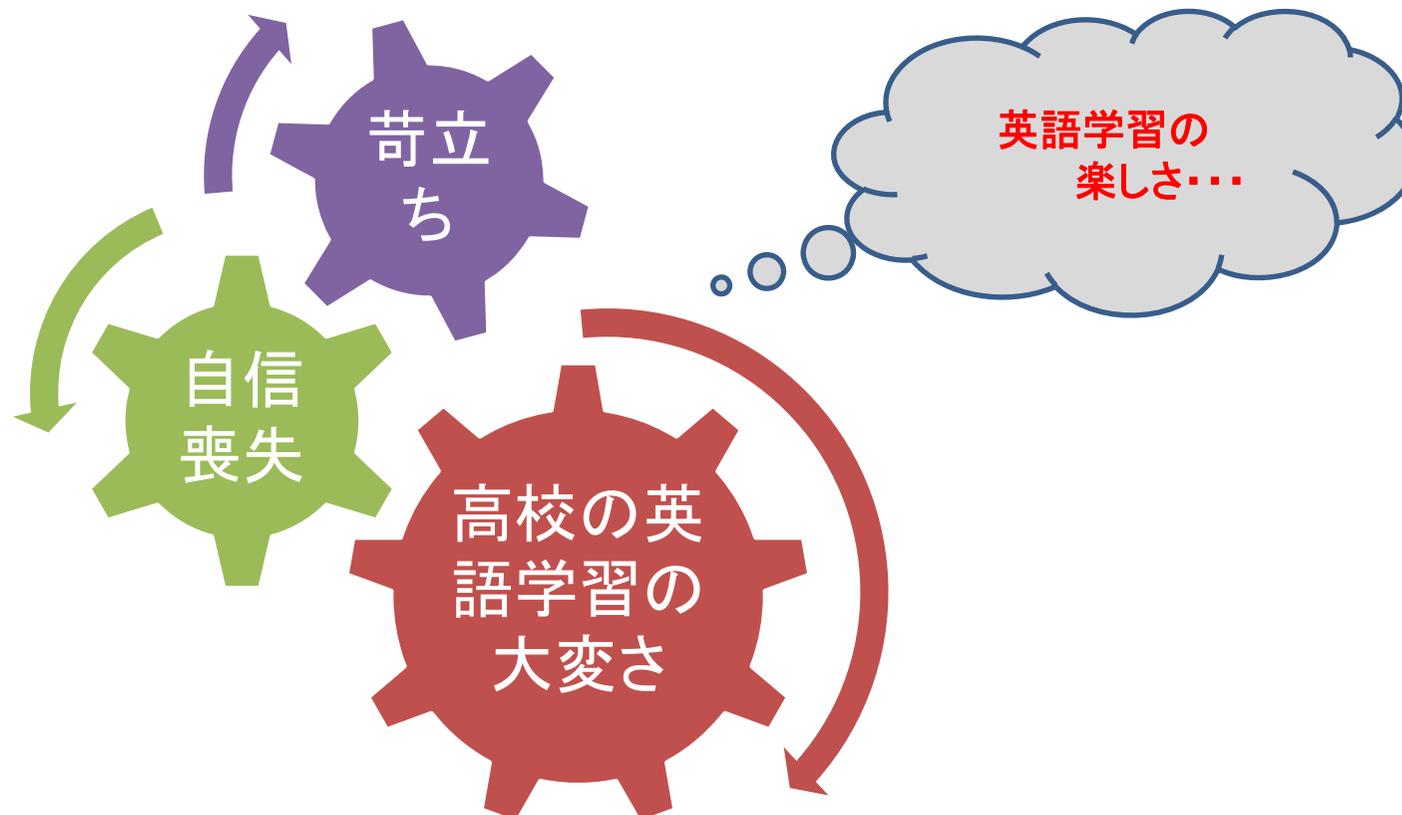
●理学療法士か小学校の先生

●オーストラリアやヨーロッパにいつかは行ってみたい。

－テレビの旅番組で見て興味を持って。

●現地の人と普通の会話ができるくらいの力がほしい。

－20代で学習するつもり。



➡ **英語学習において葛藤している。**

- ・ 中学の時は英語学習が楽しく自信もあった。
- ・ 高校に入って英語学習に立ち向かう意欲を失い、成果も感じられていない。
- ・ 今の自分の状態とその状態を生み出している高校の英語学習に「苛立ち」を感じ、苦しんでいる。

## フェルトセンス

（うまく言葉にできないけれど重要だと感じられる身体感覚\*）

行動に理由がある。  
安定している。  
学習に押されていない。  
気持ちがり乗り越えている。  
不安を持っていない。  
なぜか違和感。

### パターン

（インタビューから読み取れる、行動や意識、志向などのパターン）

- ①学校の授業を受け入れている。
- ②英語をリアルに感じた楽しい体験がある。
- ③分析や構造化が好きである。
- ④文法をコミュニケーションに活かせると思っている。
- ⑤興味を持ったことに自分で行動を起こす。
- ⑥コミュニケーションのおもしろみを理解している。
- ⑦先生を肯定的に受け入れている。
- ⑧課題を無理なくこなしている。

## 高校生B：英語学習研究 ヒアリング二次分析（TAE）

### 【パターン1】

● やり方は、あの、その、1学期のホントに最初の方、あの学年としての最初の方に、その、あの、**英語の先生が、こういう風に予習をしてこい、みたいな形で、その、あの、うちの高校はシラバスっていう、その、各教科の、どんなことをやりますっていうのがあるんです**けど、その冊子に、もう、最初から書いてあるんで。

### 【パターン2】

● **オーストラリアにホームステイをしたんです**けど、その時にやっぱり、**英語だけを話すっていう環境に置かれてみて、すごい新鮮**に感じたりして。

それで、それから日本に帰ってきて、その英語だけじゃなくて、そのいろんな**言葉に興味**を持つようになって、その**言葉と言葉の共通性**だったりとか、**違い**だったりとか。そういうところに興味を持って。

## 高校生B：英語学習研究 ヒアリング二次分析（TAE）

幼少中

言葉への興味が  
高まる

- 英語に触れたことが英語に積極的になる原体験。
- 小中の時に多くのインパクトのある楽しい英語体験
  - 幼児期に祖母がABCの歌をよく歌ってくれた。→歌と文字に興味
  - 英会話教室（小3～6）
  - 小学校英語→「わかる」嬉しさ
  - オーストラリアに10日間ホームステイ（中2）

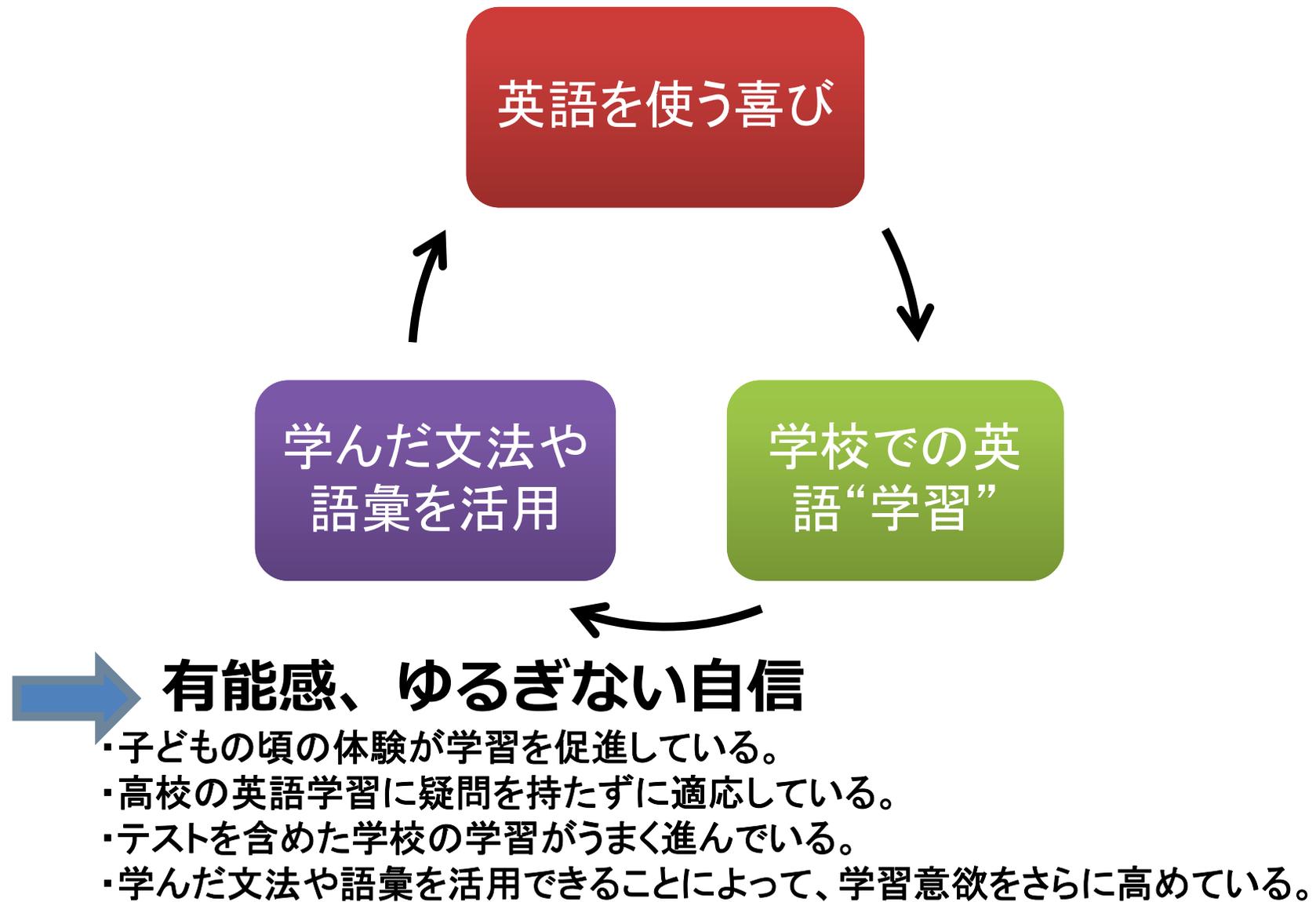
高校

高校の英語学習  
にうまく適応しつ  
つ、体験の楽し  
さも感じている。

- 高校の英語学習を受け入れ、無理なくこなしている。
  - 教科書本文を2時間かけて写している。・内容を和訳している。
  - 単語を覚える。
- 学んだ文法や語彙を活用できている。
  - 授業でのディスカッション、ALTとの会話、英語のプレゼン番組を見る、ライトノベルを読む、など。

将来

- 言語学の研究者
- 学会に参加した時に、自分の意見を英語で言えるようになりたい。



# まとめ

- 2人の学習者の分析が示唆すること
  1. 生徒の学習に、「先生」が良い影響も悪い影響も与えていることが分かった。教師は、生徒に何を期待し、何をしていくべきか具体的に考えるべきであろう。
  2. 生徒の学習に、さまざまな英語経験が影響を及ぼしていることが示された。
  3. 英語を使ったコミュニケーション経験と、英語学習が、統合されている学習者と、分離している学習者がいることが占めされた。
  4. 「中高の授業のギャップ」や「未来の目標と現在の学習との不一致」なども観察された。
- TAE の研究が示唆すること
  1. 量的調査とは異なり、質的研究は対象人数が限られるため、出てきた結果は個別事例であり、一般化できるものではないが、転用可能なものである。
  2. 大人数の調査では、全体的な傾向はわかるものの、個々の学習者の具体的な学び方などは見えてこない。
  3. しかしながら、今回一人一人から個別の文脈に則した情報が得られた。

# 主な引用文献

- 得丸さと子.(2010).『ステップ式質的研究法—TAEの理論と応用』. 東京: 海鳴社.